

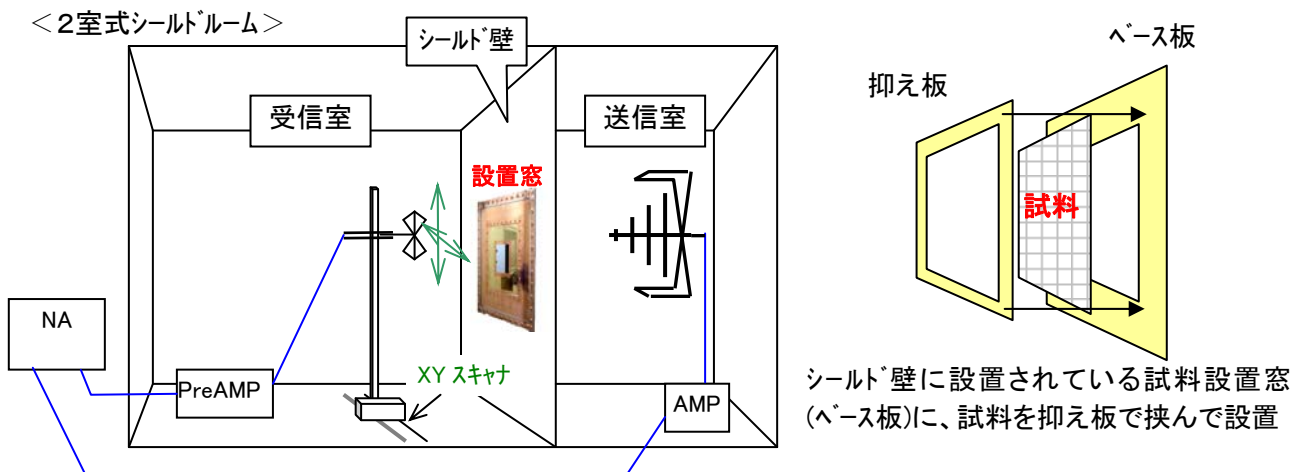
シールド特性の評価

MaxHold 機能付ネットワークアナライザを用いて、周波数スイープ法によるシールド評価の高速測定が可能。測定データはエクセルでの提供により、各種データの比較やオリジナルレポートの作成等が容易にできます。

2室式シールドルームによる各種シールド材の特性評価

より実使用に近いシールド効果特性を評価する為 MIL-STD-285 準拠した概略遠方界でのシールド評価が可能。

- 対象シールド試料： ガスケット・コネクタ・シールドフィルム・シールド板・金網・ハニカム材・シールド硝子・・・
さらには、シールドドア等も可能

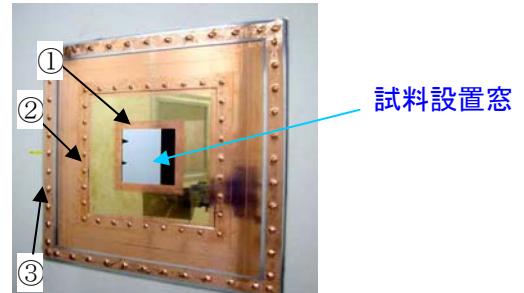


- 評価法： 試料がない(オープン)状態を基準にし、試料を挿入後に XY スキャナでアンテナを移動させ最大漏れ電界を測定。(スキャン測定により漏れ電波を確実に測定)
- 周波数範囲：

10k-30MHz(磁界波)	Spec 80-100dB	ANT: Tx Loop / Rx Loop アンテナ
(Spec/アンテナ) 100k-30MHz(電界波)	Spec 60-100dB	ANT: Tx Rod / Rx Rod アンテナ
30M-1000MHz(平面波)	Spec 100dB 以上	ANT: Tx Bilog / Rx 小型 Bicon アンテナ
1G-18GHz(マイクロ波)	Spec 100dB 以上	ANT: Tx Hone / Rx Horn アンテナ

- 試料サイズ： 試料寸法及び取付方法はご要望に応じて対応可能

標準試料開口	標準試料サイズ mm
① 200 □	220 × 220 ±5
② 480 □	496 × 496 ±5
③ 770 □	800 × 800 +5/-10
④ 最大開口※	2,250 × 1,450



※シールドドアの評価も可能

2 室式シールドルームを用いたケーブル・コネクタ等のシールド評価

ケーブル/コネクタ以外からの不要輻射をカットし、純粋にコネクタ単体/ケーブル単体/コネクタ+ケーブルだけのシールド特性が評価可能。

- コネクタ取付けアダプタ板を変更する事により各種コネクタの形状に対応。
- 送信室側で信号の入力/終端を行い、受信室側にてケーブル/コネクタからの最大放射電界を測定。
- ケーブルの種類、コネクタの種類、終端方法の違い(シールドリターン、ケーブルリターン、差動伝送)によるシールド効果差を測定。
- 送信室を実際の筐体とみなし、筐体に接続されるコネクタ/ケーブルからの放射レベルのみを模擬し評価することも可能。

